

高市早苗内閣が発足

第25代文部科学大臣に松本洋平衆議院議員

——内閣府副大臣や経済産業副大臣など歴任、東京出身の52歳——

自民党の高市早苗総裁が10月21日、衆参両院の首相指名選挙で第104代首相に選出され、高市内閣が発足した。文部科学大臣には松本洋平衆議院議員(比例代表東京ブロック選出)が就任。初入閣となる。

松本氏は東京出身の52歳。慶応義塾大学経済学部を卒業後、1996年に三和銀行(現、

三菱UFJ銀行)に入行した。2005年の衆議院議員選挙で初当選し、現在6期目。これまで、内閣府副大臣(防災担当)や経済産業副大臣などを歴任している。

22日に阿部俊子前大臣との事務引継ぎ式が執り行われ、松本大臣は「この間、大変立派な活動、そして職務を果たされたことに心から敬意と感謝を申し上げます。残された取り組みについてしっかりと引き継ぎ、課題についても解決できるように全力を尽くして参りたい」と語った。



引継書を掲げる阿部前大臣④と松本新大臣



大臣室で引継書に署名する新旧大臣

なお、政府は22日の臨時閣議で副大臣と政務官を決定した。文部科学副大臣には中村裕之衆議院議員と小林茂樹衆議院議員を、文部科学大臣政務官には清水真人参議院議員と福田かおる衆議院議員を起用した。

就任会見

松本大臣「現場の声聞きたい」

高市内閣で初入閣した松本洋平文部科学大臣は10月22日、文科省で初めての会見に臨み、「文科省が担う分野は多岐にわたる。教育、科学技術・学術、スポーツ、文化芸術は次世代に向けて豊かな未来を創造し、繋いでいく重要な分野だ。それぞれの現場の声をしっかりと聞きながら、文部科学行政を進めるよう全力を尽くす」と語った。

喫緊の課題には高校無償化を挙げた。松本氏は大臣就任前、自民党政務調査会の副会長兼事務局長として、教育無償化を巡る日本維新の会と公明党との政策協議に奔走していたという。松本大臣は「議論は継続中だが、今後の協議では、高等学校等修学支援金制度の拡充、また、高校改革を推進するための取り組みが大きな柱になると考えている」と話すとともに、学校における働き方改革では「教師という仕事の尊さや働きがいを感じてもらえる環境整備が大事」と話した。



重要大臣
松本大臣は「(人間形成において)教育は重要な役割を持つ」と話す

科学技術政策については「科学技術の力、そして、イノベーションを生み出していく国づくりは、我が国経済、国民生活、社会課題の解決を進めるためには必要不可欠であり、その重要性はますます高まっている。また、ノーベル賞を受賞された坂口・北川両先生は『基礎研究の充実、若手研究者への支援を』と話されていた。現場の意見を聞きながら、抜本的に強化する施策を進めていきたい」と強調した。来年度から始まる第7期科学技術・イノベーション基本計画策定に向けた議論が政府内で続いている。松本大臣は「関係府省と連携しつつ、(研究者を)後押しできるようにしたい」と語った。